**２０２１年度事業報告**

**第１　組織体制等**

**１　業務執行組織（２０２１年４月１日現在）**

総務情報部

法人事務所

情報ステーション

理

事

会

情報製作センター

障害支援部

相談支援室ほくほく

鳥居寮

あいあい教室

らくらく

ＦＳトモニー

高齢支援部

盲養護老人ホームライトハウス朱雀

特定施設入居者生活介護事業所ライトハウス朱雀

特別養護老人ホームライトハウス朱雀

短期入所生活介護事業所ライトハウス朱雀

デイサービスセンターライトハウス朱雀

ケアプランセンターライトハウス朱雀

施設事務所

**２　職員数（２０２１年４月１日現在）**

（単位：名）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 施設・事業所名 | 正職員 | 嘱託職員 | 臨時的雇用職員 | 合　計 |
| 法人事務所 | ６〔6.0〕 | ２〔1.8〕 | ５〔3.6〕 | １３〔11.4〕 |
| 情報ステーション | ９〔9.0〕 | ２〔1.7〕 | ４〔1.5〕 | １５〔12.2〕 |
| 情報製作センター | ２〔2.0〕 | １〔1.0〕 | １０〔6.2〕 | １３〔9.1〕 |
| 相談支援室ほくほく | ５〔5.0〕 | 1〔1.0〕 | ４〔1.6〕 | １０〔7.6〕 |
| 鳥居寮 | ９〔9.0〕 | ０〔0.0〕 | １１〔6.0〕 | ２０〔15.0〕 |
| あいあい教室 | ６〔6.0〕 | ２〔1.8〕 | ５〔3.5〕 | １３〔11.3〕 |
| らくらく | ４〔4.0〕 | １〔1.0〕 | １３〔8.2〕 | １８〔13.2〕 |
| ＦＳトモニー | ６〔6.0〕 | ３〔3.0〕 | ２０〔13.0〕 | ２９〔22.0〕 |
|  | （再掲）Ａ型事業所利用者 |  |  | １１〔5.8〕 | １１〔5.8〕 |
| 盲養護老人ホームライトハウス朱雀 | １７〔17.0〕 | ２〔2.0〕 | １２〔7.2〕 | ３１〔26.2〕 |
| 特養老人ホームライトハウス朱雀 | ４８〔48.0〕 | ３〔3.0〕 | １９〔14.0〕 | ７０〔65.0〕 |
| 合　計 | １１２〔112.0〕 | １７〔16.3〕 | １０３〔64.7〕 | ２３２〔193.0〕 |

※　〔　〕内は常勤換算数を記載している。

※　ＦＳトモニーには、就労継続支援Ａ型事業所の利用者を含む。

※　特養老人ホームライトハウス朱雀には、デイサービスセンター、ケアプランセンターの職員を含む。

**第２　法人の実施事業（２０２１年４月１日現在）**

**１　社会福祉事業**

**⑴　第１種社会福祉事業**

①　養護老人ホーム【盲養護老人ホームライトハウス朱雀】

②　特別養護老人ホーム【特別養護老人ホームライトハウス朱雀】

③　障害者支援施設（施設入所支援・自立訓練）【鳥居寮】

**⑵　第２種社会福祉事業**

①　障害児通所支援事業（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・居宅訪問型児童発達支援）【あいあい教室】

②　障害児相談支援事業【相談支援室ほくほく】

③　老人デイサービス事業【デイサービスセンターライトハウス朱雀】

④　老人短期入所事業【短期入所生活介護事業所ライトハウス朱雀】

⑤　障害福祉サービス事業（生活介護）【らくらく】

⑥　障害福祉サービス事業（就労継続支援Ａ型・就労継続支援Ｂ型）【ＦＳトモニー】

⑦　一般相談支援事業【相談支援室ほくほく】

⑧　特定相談支援事業【相談支援室ほくほく】

⑨　視聴覚障害者情報提供施設（点字図書館・点字出版所）【情報ステーション・情報製作センター】

⑩　身体障害者の更生相談に応ずる事業（視覚障害者生活相談）【法人事務所・相談支援室ほくほく】

⑪　身体障害者の更生相談に応ずる事業（在宅視覚障害者巡回歩行訓練）【鳥居寮】

**２　公益事業**

**⑴　地域公益事業**

①　視覚障害者日常生活用具等斡旋事業【法人事務所】

②　船岡健康長寿サロン活動支援事業【法人事務所】

③　京都ライトハウス眼科診療所経営事業【相談支援室ほくほく】

④　京都ロービジョンネットワーク構築事業【相談支援室ほくほく　他】

⑤　視覚障害者支援啓発・研修事業【法人事務所】

⑥　京都ライトハウスまつり事業【法人内実行委員会】

⑦　福祉避難所運営事業【法人全体】

⑧　京都ライトハウス貸室事業【法人事務所】

**⑵　公益事業**

①　居宅サービス事業（特定施設入居者生活介護）【特定施設入居者生活介護事業所ライトハウス朱雀】

②　居宅介護支援事業【ケアプランセンターライトハウス朱雀】

③　京都市点訳奉仕員・音訳奉仕員養成事業【情報ステーション】

④　京都市障害者地域生活支援センター事業【相談支援室ほくほく】

⑤　京都市障害支援区分認定調査業務【相談支援室ほくほく】

⑥　京都府中途失明者指導訓練等事業【鳥居寮】

⑦　京都府視力障害児療育訓練事業【あいあい教室】

**第３　２０２１年度主要事業の実績数値**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 施設・事業所 | 項　　　　　目 | 2021年度実績 | （参考）2020年度 |
| 総務情報部 | 情報ステーション | 点字図書 | 貸出延べ人数 | 1,690人  | 1,808人 |
| デイジー図書 | 貸出延べ人数 | 14,993人  | 14,882人 |
| 情報製作センター | 点字印刷 | 受託額 | 31,520千円 | 28,919千円 |
| 録音製作 | 受託額 | 15,269千円 | 9,465千円 |
| 障害支援部 | 相談支援室ほくほく | 相談支援室の計画作成等 | 計画作成件数 | 46件  | 54件 |
| モニタリング件数 | 40件  | 78件 |
| ほくほくの計画作成等 | 計画作成件数 | 70件  | 74件 |
| モニタリング件数 | 153件  | 147件 |
| 鳥居寮 | 施設入所支援 | 延べ利用者数 | 852人  | 1,185人 |
| 稼働率（注1） | 19.0％  | 26.0％ |
| 機能訓練 | 延べ利用者数 | 3,936人  | 3,321人 |
| 稼働率 | 82.0％  | 68.9％ |
| あいあい教室 | 児童発達支援 | 延べ利用者数 | 1,349人  | 1,462人 |
| 稼働率 | 46.5％  | 52.4％ |
| 放課後等デイサービス | 延べ利用者数 | 1,709人  | 1,273人 |
| 稼働率 | 58.7％  | 46.0％ |
| らくらく | 生活介護 | 延べ利用者数 | 3,499人  | 3,456人 |
| 稼働率 | 72.3％  | 72.6％ |
| ＦＳトモニー | 就労継続支援Ａ型 | 延べ利用者数 | 2,209人  | 2,315人　 |
| 稼働率 | 75.4％  | 80.7％　 |
| 就労継続支援Ｂ型 | 延べ利用者数 | 5,982人  | 6,269人 |
| 稼働率 | 82.7％  | 88.2％ |
| 高齢支援部 | 盲養護ホーム朱雀 | 養護老人ホーム | 延べ措置者数 | 18,250人  | 18,229人 |
| 在籍率（注2） | 100.0％  | 99.9％ |
| 特定施設生活介護朱雀 | 特定施設生活介護 | 延べ利用者数 | 7,017人  | 7,202人 |
| 稼働率 | 96.1％  | 95.8％ |
| 特養ホーム朱雀 | 特養老人ホーム | 延べ利用者数 | 22,024人  | 22,696人 |
| 稼働率 | 92.8％  | 95.7％ |
| 短期入所生活介護朱雀 | 短期入所生活介護 | 延べ利用者数 | 2,809人  | 2,667人 |
| 稼働率 | 85.5％  | 81.2％ |
| デイサービスセンター朱雀 | デイサービス | 延べ利用者数 | 5,131人  | 5,256人 |
| 稼働率 | 82.5％  | 84.8％ |
| ケアプランセンター朱雀 | ケアプラン | 件数（月平均） | 74.8件  | 70.5件 |

（注1）稼働率＝延べ利用者数÷（定員×営業日数）　（注2）在籍率＝各月1日現在の措置者合計÷（定員×12月）

**第４　２０２１年度決算概況**

**１　収支状況表（資金収支計算書ベース）**

（単位：千円）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 本部 | 施設 | あいあい | 鳥居寮 | らくらく |
| 収　入　ａ | 154,462 | 232,819 | 96,943 | 79,951 | 73,824 |
| 　 | 内部相殺後　ｂ | 126,462 | 232,789 | 64,793 | 79,858 | 73,190 |
| 支　出　ｃ | 145,898 | 230,218 | 109,498 | 79,832 | 79,150 |
| 　 | 内部相殺後　ｄ | 105,575 | 222,774 | 105,397 | 75,832 | 75,998 |
| 収支差額　ｅ＝(a－c) | 8,564 | 2,601 | △ 12,555 | 119 | △ 5,326 |
| 　 | 内部相殺後　ｆ＝(b－d) | 20,887 | 10,015 | △ 40,604 | 4,026 | △ 2,808 |
| 当期積立金 | 93,879 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 累計繰越金 | 50,618 | 139,044 | 17,212 | 30,503 | 53,611 |
| 前期収支比較 | 前期収入 | 56,842 | 223,178 | 57,185 | 75,608 | 93,578 |
| 前期収入からの増減 | 97,620 | 9,641 | 39,758 | 4,343 | △ 19,754 |
| 前期支出 | 45,396 | 222,415 | 73,155 | 81,532 | 97,534 |
| 前期支出からの増減 | 100,502 | 7,803 | 36,343 | △ 1,700 | △ 18,384 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | トモニー | 相談支援室 | 朱雀養護 | 朱雀特養 | 合　計 |
| 収　入　ａ | 108,846 | 35,203 | 210,386 | 445,940 | 1,438,374 |
| 　 | 内部相殺後　ｂ | 106,668 | 35,177 | 210,231 | 437,486 | 1,366,654 |
| 支　出　ｃ | 112,820 | 30,944 | 204,949 | 461,857 | 1,455,166 |
| 　 | 内部相殺後　ｄ | 108,920 | 29,744 | 202,349 | 456,857 | 1,383,446 |
| 収支差額　ｅ＝(a－c) | △ 3,974 | 4,259 | 5,437 | △ 15,917 | △ 16,792 |
| 　 | 内部相殺後　ｆ＝(b－d) | △ 2,252 | 5,433 | 7,882 | △ 19,371 | △ 16,792 |
| 当期積立金 | 332 | 　 | 1,500 | 9,500 | 105,211 |
| 累計繰越金 | 4,543 | 44,702 | 141,392 | 68,562 | 550,187 |
| 前期収支比較 | 前期収入 | 116,747 | 37,195 | 214,438 | 448,322 | 1,323,093 |
| 前期収入からの増減 | △ 7,901 | △ 1,992 | △ 4,052 | △ 2,382 | 115,281 |
| 前期支出 | 119,296 | 28,453 | 214,409 | 471,227 | 1,353,417 |
| 前期支出からの増減 | △ 6,476 | 2,491 | △ 9,460 | △ 9,370 | 101,749 |

**２　各種積立金状況表**

（単位：千円）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 本部 | 施設 | あいあい | 鳥居寮 | らくらく |
| 人件費積立預金 | 56,500 | 16,470 | 0 | 2,400 | 0 |
| 修繕積立預金 | 60,650 | 3,000 | 12,000 | 0 | 5,500 |
| 備品等購入積立預金 | 54,500 | 7,000 | 7,000 | 3,500 | 30,900 |
| 整備資金積立預金 | 155,979 | 30,000 | 0 | 0 | 0 |
| 移行時特別積立金 | 0 | 0 | 0 | 1,187 | 0 |
| 退職給与積立預金 | 34,699 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 362,328 | 56,470 | 19,000 | 7,087 | 36,400 |
|  |
|  | トモニー | 相談支援室 | 朱雀養護 | 朱雀特養 | 合　計 |
| 人件費積立預金 | 4,343 | 0 | 1,300 | 0 | 81,013 |
| 修繕積立預金 | 0 | 1,000 | 20,500 | 3,000 | 105,650 |
| 備品等購入積立預金 | 0 | 1,000 | 0 | 8,000 | 111,900 |
| 整備資金積立預金 | 0 | 0 | 3,000 | 0 | 188,979 |
| 移行時特別積立金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,187 |
| 退職給与積立預金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34,699 |
| 合 計 | 4,343 | 2,000 | 24,800 | 11,000 | 523,428 |

**３　決算の概況**

○　2021年度の決算は、総収入が対前年度比1憶1,528万円増の14億3,837万円、総支出が対前年度比1億174万円増の14億5,516万円で、収支は1,679万円の赤字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、総収入13億6,665万円、総支出13億8,344万円、収支は1,679万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等によって、介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入が見込額より大幅に落ち込む一方で、出版事業収入や経常経費補助金が見込額を上回ったことなどに加え、高額の寄付をいただいたことにより、予算額を上回る13億1,314万円となりました。一方、支出においては、職員の年度途中退職があり、結果的に人件費支出が減少したことや、修繕費用が見込額を下回ったことなどにより、予算額を下回る11億7,129万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては1億4,184万円の黒字となっています。

○　以下は、拠点ごとの決算概況です。

⑴　本部拠点区分

○　収入が対前年度比9,762万円増の1億5,446万円、支出が対前年度比1億50万円増の1億4,589万円、収支は856万円の黒字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入1億2,646万円、支出1億557万円、収支は2,088万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、遺贈による高額の寄付をいただき、収入が予算額を大幅に上回りました。

○　「その他の活動による収支」では、その高額の寄付について、収入に際し必要となった経費を差し引いた全額を将来の整備に備える資金に充てることとし、予算額を大幅に上回る積立てを行いました。

⑵　ライトハウス施設拠点区分

○　収入が対前年度比964万円増の2億3,281万円、支出が対前年度比780万円増の2億3,021万円、収支は260万円の黒字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入2億3,278万円、支出2億2,277万円、収支は1,001万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、出版事業収入が選挙関連の受注増により、予算額を上回る2億3,278万円となりました。一方、支出においては、ライトハウス本館の不急の修繕を先送りしたことで、修繕費が見込額を大幅に下回り、2億2,029万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては1,249万円の黒字となっています。

⑶　あいあい教室拠点区分

○　収入が対前年度比3,975万円増の9,694万円、支出が対前年度比3,634万円増の10,949万円、収支は1,255万円の赤字となりました。前年度より収入・支出とも大きく増加している要因は、放課後等デイサービス事業の新施設が完成したことにより、積立資産の取崩や拠点区分間繰入金を受け入れ、固定資産取得支出を計上したことによるものです。

※　内部相殺後でみた場合は、収入6,479万円、支出10,539万円、収支差額4,060万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、障害福祉サービス等事業収入が見込額を大きく下回ったことにより5,379万円となりました。一方、支出においては、ほぼ予算と同額の6,330万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては950万円の赤字となっています。

⑷　鳥居寮拠点区分

○　収入が対前年度比434万円増の7,995万円、支出が対前年度比170万円減の7,983万円、収支は11万円の黒字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入7,985万円、支出7,583万円、収支は402万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回ったことにより7,485万円となりました。一方、支出においては、職員の年度途中退職による人件費支出の減、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による事業費支出の減などにより6,867万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては617万円の黒字となっています。

⑸　らくらく拠点区分

○　収入が対前年度比1,975万円減の7,382万円、支出が対前年度比1,838万円減の7,915万円、収支は532万円の赤字となりました。前年度より収入・支出とも大きく減少している要因は、前年度が、利用者からいただいた高額の寄付を積立金として支出したことにより、例年より増加していたことによるものです。

※　内部相殺後でみた場合は、収入7,319万円、支出7,598万円、収支は280万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回ったことにより、6,569万円となりました。一方、支出においては、人件費が見込額をやや上回ったことなどにより、7,014万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては445万円の赤字となっています。

○　「施設整備等による収支」では、老朽化した送迎用車両の買換えを2台行ったため、固定資産支出が576万円となりました。

○　「その他の活動による収支」では、送迎車両購入や他の備品購入費用などに充てるため、積立資産から750万円の取り崩しを行いました。

⑹　ＦＳトモニー拠点区分

○　収入が対前年度比790万円減の1億884万円、支出が対前年度比647万円減の1億1,282万円、収支は397万円の赤字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入1億666万円、支出1億892万円、収支は225万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、就労支援事業収入や障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回ったことにより、1億666万円となりました。一方、支出においては、職員の年度途中退職による人件費支出の減や、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による事業の縮小により、就労支援事業支出が予算額を下回ったことなどにより、1億545万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては121万円の黒字となっています。

⑺　相談支援室拠点区分

○　収入が対前年度比199万円減の3,520万円、支出が対前年度比249万円増の3,094万円、収支は425万円の黒字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入3,517万円、支出2,974万円、収支は543万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、ほぼ予算額どおりの3,516万円となりました。一方、支出においては、職員の年度途中退職による人件費支出の減により、予算額を下回る2,946万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては570万円の黒字となっています。

⑻　朱雀養護拠点区分

○　収入が対前年度比405万円減の2億1,038万円、支出が対前年度比946万円減の2億494万円、収支は543万円の黒字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入2億1,023万円、支出2億234万円、収支は788万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、老人福祉事業収入が見込額をやや下回ったことなどにより、2億1,023万円となりました。一方、支出においては、ほぼ予算額どおりの1億8,886万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては2,137万円の黒字となりました。

○　「施設整備等による収支」では、福祉・医療機構からの借入金返済として支出した費用を計上しています。

○　「その他の活動支出」では、将来において京都市へ借用地を更地で返却する必要があり、建物除却費用等の積立金として150万円を支出しました。

⑼　朱雀特養拠点区分

○　収入が対前年度比238万円減の4億4,594万円、支出が対前年度比937万円減の4億6,185万円、収支は1,591万円の赤字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入4億3,748万円、支出4億5,685万円、収支は1,937万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響などによって、介護保険事業収入が予算額を大きく下回り、4億3,748万円となりました。一方、支出においては、職員の年度途中退職などにより、人件費支出は見込額を下回りましたが、職員採用のために利用した人材紹介業者への手数料など、事務費支出は見込額を上回り、4億1,340万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては2,408万円の黒字となっています。

○　「施設整備等による収支」では、福祉・医療機構からの借入金返済として支出した費用を計上しています。

○　「その他の活動支出」では、将来において京都市へ借用地を更地で返却する必要があり、建物除却費用等の積立金として150万円を支出しました。

**第５　２０２１年度事業計画の取組結果（概況）**

**１　社会福祉事業の推進**

**⑴　社会福祉事業の利用者確保に向けた創意工夫**

**ア　実施する社会福祉事業における利用者の確保**

〇　鳥居寮では、若手職員が中心となり、新しいパンフレット作成の取組を進めた。

　デザインイメージを固め、写真や文章の差し替え作業に着手し、2022年7月頃の完成を目指している。併せて動画撮影を行い、広報媒体としての活用を検討していく。

〇　らくらくでは、3人の方を新たに受け入れるとともに、サービス受給上限に余裕がある利用者に、通常の利用日以外の利用勧奨を行い、9人の追加利用（週1回5人、月1回程度4人）につながった。

　　　〇　ライトハウス朱雀ケアプランセンターでは、8月から1名増員（2名→3名）を行って体制強化を図り、10月から居宅介護支援費の「特定事業所加算Ⅲ」を取得した。

地域包括支援センター等に周知し、新規ケースの紹介を打診することで、利用者数は着実に増加してきたが、2022年3月で82人/月であり、目標利用者数（100人/月）には達しなかった。

**イ　アウトリーチ（地域への出張）による福祉サービスの提供**

〇　情報ステーションでは、新型コロナウイルス感染症の影響により休止していたが、一部再開することができた。

・　宇治市視覚障害者協会高齢部主催でバリアフリー上映体験会を1月6日に開催した。

・　京都アスニーと共催でバリアフリー上映会を2月20日に開催した。

・　精華町立図書館にて、移動図書館およびデイジー再生機の講習を3月18日に開催した。

**⑵　提供する福祉サービスの質の向上**

**ア　職員の人権意識の向上と専門知識・技術の習得**

〇　障害支援部では、職員の希望に応じた交換研修を各事業所の受入れ状況を踏まえ実施した。

 ・　あいあい教室支援員１名をらくらくで実習　10月に4日間

　・　鳥居寮生活支援員1名をらくらくで実習　　10月に2日間

〇　鳥居寮では、OB職員の協力を得て、新人歩行訓練士へのスーパーバイズを11月29日から開始するとともに、訓練開始までの手続きや、寮内でのオリエンテーション等について、1月4日に所属内研修を実施した。

〇　ＦＳトモニーでは、職員の業務能力の向上に向けて積極的に取り組みを進めた。

・　福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程チームリーダーコース (10月26日、11月29日）

・　京都ロービジョンネットワーク相談員研修会（10月18日、1月31日）

・　基幹型支援センター研修事業 （11月25日）

・　相談支援専門員スキルアップ研修（12月15日）

・　対人援助職のメンタルヘルス研修（2月4日）　等

　**イ　利用者等のニーズを踏まえた福祉サービスの改善**

　〇　障害支援部では、トモニー・らくらく・鳥居寮で合同研修会を行い、自主点検表を相互に確認し合うなど取組を進めた結果、10月14日に実施された今年度の京都市実地監査の文書指摘はゼロであった。あいあい教室については、年度末に最終点検を行った。

　〇　あいあい教室では、事業所内評価アンケートを1月20日から3月10日まで実施し、その結果を3月30日にホームページに掲載した。

　〇　らくらくでは、利用者全員に実施したモニタリングに基づき、プログラム会議、全体会議において支援内容の充実等の検討を進めた。その結果として、グループに分かれてのプログラム（テーブルゲーム、貼り絵など3班を目途）を定例化させるなど改善を行い、利用者から好評を得ている。また、レクリエーション目的での臨時追加利用にも繋がった。

　〇　ライトハウス朱雀特養では、2ユニット1グループ化を推進するために、グループリーダー代理、サブリーダーの配置を進め、1月からすべてのユニットで新体制に移行した。

**ウ　業務効率化の推進**

　〇　情報ステーションでは、インカム子機を7月に1台、9月に2台導入した。両手が空くことで、端末での検索や記録がしやすくなった上、電話から離れての在庫確認や、電話中に来館者があってもバックヤードの職員を呼びに行くことも可能となり、待ち時間短縮にも貢献した。

　　　〇　ライトハウス朱雀特養では、見守りセンサーを導入し、必要に応じてその都度居室に設置し活用している。電波状況により使用できない居室は、センサーマットと併用している。

**エ　法人内の連携強化によるサービスの向上**

　〇　法人事務所では、新型コロナウイルス感染症の影響による事業休止や施設の一時休業対応等についても、各施設と緊密な調整の下、速やかにホームページで情報発信を行った。

　〇　情報ステーション・情報製作センターでは、点訳や録音の専門技術を有する製作部門の職員が所属の垣根を越えて相互の事業を補完するなど、情報部門一体となって事業を運営した。

京都市からの補助金が大幅に削減されることになり、更なるサービス向上と効率的な運営を図るため、情報提供施設の統合による持続可能な体制を引き続き検討する。

〇　情報ステーション・情報製作センター・鳥居寮では、点字普及委員会として、鳥居寮の訓練の様子を中心とした動画「点字とともに　点字となかよし」を作成し、11月にホームページに公開した。

〇　あいあい教室では、京都コンサートホールの協力により、アウトリーチ事業を利用し「ライトハウス60周年記念コンサート」を7月30日に実施した。

また、大阪工業大学・美ら海水族館とのコラボ企画「水族館体験」を10月11日実施した。

〇　あいあい教室では、児童発達支援において、相談支援室と連携した学習会「就学後の福祉制度について」を10月に3日、事務所と連携した「館内見学」を11月に5日開催した。

一方、放課後等デイにおいては、高校3年生の利用者3人に、鳥居寮での訓練体験を行うとともに、保護者向け学習会・見学会を鳥居寮やらくらくで実施した。

**オ　顧客の拡大に向けた魅力ある製品づくり**

〇　情報製作センターでは、１階の用具コーナー横のディスプレイや、3階の印刷・製本室前のディスプレイに新商品を展示した。

※　2022年1月7日付毎日新聞朝刊に、「ロービジョン対応点字付き百人一首かるた取り札」についての記事が掲載された。

※　ＹＢＳラジオ『ラジオライトハウス』で、「ロービジョン対応点字付き百人一首かるた取り札」について電話取材を受けた（放送2022年1月23日）。

　　　〇　ＦＳトモニーでは、古布の新商品開発と販路の拡大に向け、次のことに取り組んだ。

・　新たな試みとして、10月7日から19日までの間、コロナ渦の中、お家でものづくりされる方向けに、古布やはぎれ等を素材として販売した。

・　はあと・フレンズ・ストア・ノベルティカタログに掲載した防災グッズ入り巾着が好調な売れ行きをみせている。

・　京都市紫野障害者授産所との初コラボレーション商品である「クッキー巾着」をバレンタイン商戦に向け1月末に販売した。

〇　ＦＳトモニーでは、新規顧客を9件獲得した（京大総合博物館、京都工芸繊維大、八幡市商工会、京都労基協、花園大、個人4件）が、このうち4件は口コミ紹介で、顧客満足度の高さが新規顧客の獲得につながっている。

**⑶　福祉サービスの提供等における関係機関等との連携**

**ア　社会福祉事業における関係機関等との連携**

 〇　法人では、障害年金「眼の障害」認定基準の改正（2022年1月）に伴い、視覚障害者の適切な相談・申請につながるよう、京都府視覚障害者協会と連携し、当該改正内容を京都ライトハウス通信1月号（紙面に概要、別紙に詳細）に掲載するなど、幅広い周知に努めた。

〇　相談支援室ほくほくでは、制度の問い合わせや生活全般の課題は京都府視覚障害者協会に、具体的な用具の相談はほくほくに、京都府下からの相談は、巡回相談やロービジョン相談に迅速に繋げるなど、京都ロービジョンネットワークを通じた相談案件の的確な対応を行った。

〇　鳥居寮では、新型コロナウイルス感染症の影響により休止していた京都府下の相談会を11月に長岡京市で、12月に亀岡市で開催し、京都ロービジョンネットワークを通じて、開催地域の眼科医等への紹介を行った。

〇　あいあい教室では、新型コロナウイルス感染症の影響により、限定的な実施となった。

・　洛陽保育園との交流は11月・3月の2回行った。また保育園と相談し、ビデオレターの交流を11月に実施した。

・　盲学校が主催する「あおぞら教室」には、10月・11月・12月に親子で参加した。

〇　あいあい教室では、次のように、視覚障がい乳幼児研究会における中核的役割を果たした。

・　第43回視覚障がい乳幼児研究会「大阪大会」を11月7日にオンラインで実施した。

　・　第11回研修会（オンライン 日本ライトハウスから配信）を3月20日に実施した。

**イ　社会福祉事業を応援するボランティアの養成**

〇　情報ステーションでは、ボランティア養成講習会等について、点訳入門10回、点訳初級10回、点訳中級18回、音訳入門10回、音訳初級10回、音訳中級11回、音訳研修会8回、点訳研修会1回についてリモートで開催した。

**⑷　ニーズに対応する社会福祉事業の創出・拡大**

**ア　就労継続支援（Ａ型）事業及び老人デイサービス事業の拡大**

〇　ライトハウス朱雀デイサービスセンターでは、効率的でより安全な送迎体制構築のため、利用人数平準化、車輛点検・整備業者変更による円滑な福祉車両の代車の実施、送迎エリアの見直し検討等、課題整理に取り組んだ。

**イ　その他社会福祉事業の創出・拡大**

〇　法人では、ガイドヘルパー事業を盲養護入居者の利便性向上を第一に、副次的に収益増も図れる事業として検討し、2022年度当初から、朱雀において事業を開始できるよう取り組んだ。

**⑸　安心・安全な福祉サービスの提供**

**ア　安全で職員の負担軽減に資する設備・機器等の導入**

〇　法人では、人事労務管理の業務負担軽減を図るために、給与明細書の電子配信を6月分給与から開始し、紙による給与明細書を原則廃止するとともに、年末調整の税申告について、スマホ等からの申告を11月に開始し、紙による申告を廃止した。

〇　相談支援室ほくほくでは、執務環境改善のため、10月20日に執務室を移転した。執務面積が拡充されたことにより、拡大読書器の導入が可能となり、業務効率化を一層進めることができた。

**イ　災害や感染拡大などの緊急時に備えた対策の実施**

　　　〇　情報ステーションでは、来館による対面読書について、オンラインを利用して実施した。在宅での対面読書のオンライン利用について、利用者・ボランティアにも協力を得て試行実施を行い、新型コロナウイルス感染症等の情勢の変化にも対応可能な足がかりを得た。

〇　ライトハウス朱雀では、事業継続計画（ＢＣＰ）に基づく訓練を次のとおり実施した。

・　事業計画（震災編）に基づき、風水害に備えての備品・備蓄確認、机上訓練を地域連携会議メンバーで行った。

・　事業計画（感染症編）に基づき、机上訓練を事務局会議主任メンバーで行うとともに、特養3階フロアにて感染症対策のゾーニングを5日間試行実施した。

・　施設内感染が実際に発生した際には、部分的にＢＣＰを発動し、優先業務の継続を第一に考え、入浴回数や食事内容を見直すなど、現場の職員体制の中で実施可能な対応を行うとともに、収束後には、その検証（振り返り）を行った。新たな課題や改善点の発見もあり、今後につながる貴重な経験となった。

**２****公益事業の積極的な推進**

**⑴　視覚障害者を対象にした公益事業の実施**

〇　法人事務所では、船岡健康長寿サロンの活動支援として、次のことを実施した。

・　8月31日の企画会議、10月1日の運営会議は、Zoomと電話を活用して実施した。

・　これまでからZoom等を活用し活動してきた英会話サロンが中心となり10月31日に実施したZoom体験会について、事前準備会議の参加と当日の支援を行った。

**⑵****府市民を対象にした地域公益事業の実施**

〇　法人事務所では、次の対外向け啓発研修事業を実施した。

・　体験型の企業従業員教育 2社76人、民生児童委員研修 2団体30人

・　ライトハウス本館での施設見学 小学校、大学、専門学校合せて9校221人

・　Zoomを使ってのオンライン研修 小学校、大学合せて4校130人

・　専門学校、大学へ出張研修 2校90人

**３　福祉人材の確保・定着・育成**

**⑴　福祉人材の確保・定着に向けた取組の強化**

**ア　福祉人材の確保に向けた取組の強化**

〇　ライトハウス朱雀では、新卒者採用と求人ルート拡充に、次のように取り組んだ。

　　・　法人PR動画を就職フェアで活用し、早い段階で1名の新卒採用にもつながった。

・　大学での同行援護研修の講師として職員を派遣し、学生3名の施設見学に結びついた。

・　3月6日に開催されたFUKUSHI就職フェアKYOTOに出展した。

・　3月19日に開催された福祉・介護業界就職セミナーに出展した。15名の学生と面談を行い、5名の施設見学へとつながった。

**イ　福祉人材の定着に向けた取組の強化**

〇　法人事務所では、法人全体でのワークライフバランス推進のため、次のことに取り組んだ。

・　業務量の均衡を図り、特定の施設や職員に業務が集中しないよう適正な勤怠管理に努めるとともに、超過勤務時間の多い施設等の課題や解決方法について経営会議で共有した。

・　施設ごとに超過勤務時間枠を設定して、計画的に業務を執行する取組みを試行した。

　　　〇　ライトハウス朱雀では、職員定着対策の積極的な推進のため、次のことに取り組んだ。

・　人事評価シートを抜本的に改定し、各職階の職務・役割等を明記することで、各職員の認識を高め、より的確な評価が行えるようにした。

・　事務局会議の出席メンバーを再編し、各主任層も施設運営・経営の議論へ参画できるようにした。また部署間を超えて主任を含めた業務ラインの連携を高めるため、総合事務所内のレイアウト変更を行った。

**⑵　福祉人材の育成**

**ア　福祉人材育成システムの構築**

〇　法人では、研修計画に基づき職員研修を実施した。主な研修は次のとおりである。

　　　 「新採向け職員研修」開催　4月1日、2日、5日、5月6日、6月1日、9月1日、

11月1日、1月5日、2月1日

　　　 「市社協キャリアパス研修 中堅職員コース」参加　10月7日、14日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　⇒伝達研修（1～3級職員）2月7日、8日

　　 　「日盲社協　情報化対応支援者研修会（基礎）」参加　1月13日、14日

 　 　 「日盲社協　情報化対応支援者研修会（応用）」参加　2月24日、25日

　　 　「京都府採用力向上研修」参加　12月7日、2月17日

　　　 「運転従事者等向け安全運転研修」開催　1月17日

**イ　リーダー層の育成**

〇　法人では、4級，5級の職員を対象にしたリーダー層育成のための研修「部下・後輩を育てるコミュニケーション術」を3月9日に実施した。

**４　健全経営を行う法人組織の構築**

**⑴　法人情報の積極的な発信**

**ア　法人のサービスや取組の積極的な発信**

　〇　法人では、情報発信について、毎月、広報委員会を開催し、各施設からの情報発信の進捗内容を共有しながら進捗管理を行った。

　　　※　「興味・心・深」第12回 白杖ガール対談企画を12月24日にホームページに掲載した。

　　〇　ＦＳトモニーでは、9月に「ＦＳトモニー通信」を創刊、12月に第2号を刊行した。

**イ　情報公開による透明性の確保**

　　〇　法人では、法人の経営状況・事業計画等、必要な情報について、随時、ホームページに掲載して公開している。

**⑵　信頼性の高い安定した組織運営の確立**

**ア　コンプライアンス（法令等遵守）の徹底**

〇　法人事務所では、次のことに取り組んだ。

・　就業規程に基づく降任の手続きについて、能力不足による降任の手順や要指導職員への指導に関する期間、内容、様式等について整備した。

・　「規律委員会」の設置及び運用に関して、2022年度当初から運用を開始できるように、必要な事項を定める要綱を制定した。

**イ　組織統治（ガバナンス）の確立**

〇　法人では、2021年度に理事会を8回開催し、必要な協議・報告を適時適切に行うとともに、効果的な経営会議の運営を図るなど、健全な法人運営や良好な事業運営の推進に努めた。

**⑶****健全な財政規律の確立**

**ア　経営状況の分析と適切な資金の運用・積立て**

〇　法人では、収支の改善に向け、一体となった取組みを進め、所属ごとに職員からの意見を集約して経営会議において精査し、多くの取組の具体化を進めた。

**イ　自治体補助制度等の活用と自治体等からの事業受託**

〇　法人では、視覚障害者情報提供施設への補助金を確保するために、京都府への要望行動を10月12日に、京都市への要望行動を11月2日に実施した。

しかし、京都市からの運営補助が、京都市の財政状況の悪化により、2022年度から3000万円以上も削減されることとなり、極めて厳しい運営を強いられることとなった。

〇　法人では、新人職員に向けた経営研修を12月に実施し、法人全体や部署ごと財政状況を踏まえ、経営改善のための基本的な要素や考え方について学ぶ機会を設けた。

**ウ　京都ライトハウス後援会からの支援の確保**

〇　法人事務所では、後援会会員の増員・定着対策等に次のとおり取り組んだ。

・　後援会だよりを作成し、支援の活用内容や京都ライトハウスの活動内容をお知らせした。

・　募金箱を設置いただいている医療機関について、定期的な更新に取り組んだ。

・　ホームページからの後援会入会を容易にし、新規会員のすそ野を広げるために、後援会費のクレジット払いの検討を進めた。